

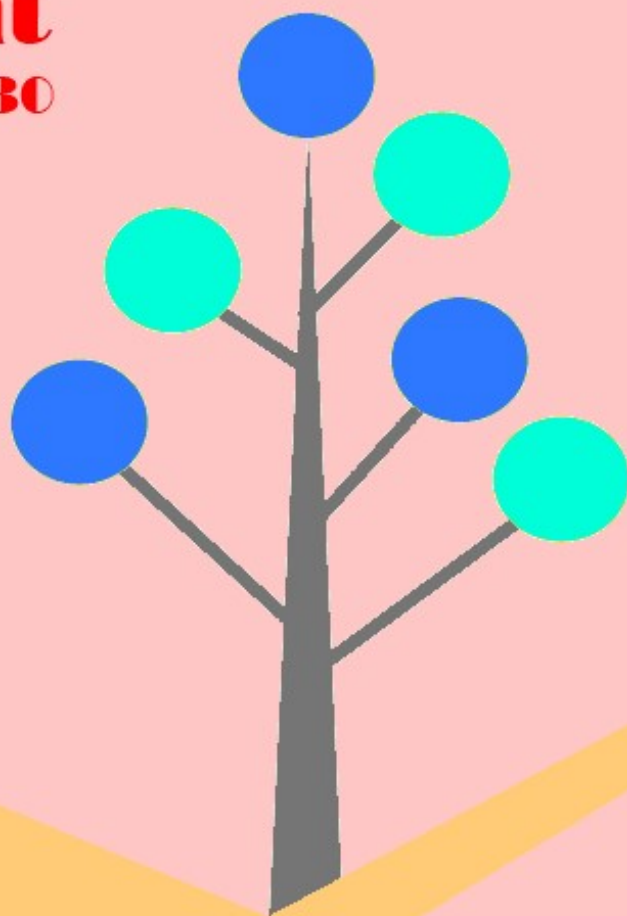
2017 フォローアップ 研修会



in 沼津

2018/1/13.sat

12:30~16:30



【テーマ】

**アウトリーチの
必要性と効果
～軌跡とみらい～**

**プラザヴェルデ沼津
4階407会議室**

**会員・賛助会員 / ¥1,000-
一般 / ¥1,500-
当事者・学生 等 / ¥500-**

■研修会テーマ

「アウトリーチの必要性と効果 ～軌跡とみらい～」

■開催にあたって

精神障害のある人たちの地域生活支援を行っていく上、で効果的な「アウトリーチ」が求められてきています。計画相談の導入や、地域移行・地域定着を進めていく上でもアウトリーチは必要であり、2018年度より始まる「自立生活援助事業」「就労定着支援事業」も効果的なアウトリーチの一つとして期待されているところです。

さて、自立支援法以前の作業所時代は、身近な所で作業所の職員が自宅訪問をしたり、通院同行等を行っていましたが、制度の流れの中で、サービスが増えてきたことによりすべてを事業所で抱えなくてもいい時代になってきています。しかし、サービスは増えていますが、役割分担という意識が強すぎてしまい、連携がうまくいけなくなったり、利用者さんが中心にいない支援に陥っていることもあるのではないのでしょうか？

今回の研修は、私たちが今まで行ってきたことアウトリーチの(軌跡)と今後を見据えていくこと(未来)を、基調講演、実践報告、意見交換を通して深めていきたいと思えます。アウトリーチにも「つなげでいく」という要素が強いものから「見守り」的要素の強いものと様々あると思えます。アウトリーチも地域生活支援の一環であるという事を再認識するとともに、今後求められていくアウトリーチについて考える機会としたいと思えます。

■詳細

会場(詳細・アクセスマップは最終頁)

「プラザヴェルデ沼津」4階407会議室

静岡県沼津市大手町1-1-4

JR東海道本線「沼津駅」下車北口より徒歩 3分

日時

2018年1月13日(土)

受付 12:00 開始 12:30

終了 16:30

詳細は右プログラム参照

参加費

会員・賛助会員 1,000円、一般(会員外) 1,500円、
学生・当事者 500円

定員 最大 60名

■主催

特定非営利活動法人 全国精神障害者地域生活支援協議会(あみ)

法人事務局 〒185-0022 東京都国分寺市東元町 4-1-14 「ヒテンハイム 102(担当:宮坂)

電話:042-313-9403 FAX:042-313-9407 メール:info@ami.or.jp

研修会事務局 〒251-0001 神奈川県藤沢市西富 368-1 社福)藤沢ひまわり グリーンウェーブ湘南A

電話:0466-28-5700 FAX:0466-28-5704

NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会

■当日プログラム

●12:00	受付開始
●12:30	開会あいさつ
●12:35	あみ活動報告 / 戸高 洋充(あみ代表)
●13:00	基調報告 / 藤井 達也 氏(上智大学総合人間科学部教授) 「精神障害者福祉の変化とアウトリーチ支援」
14:00 休憩(15分)	
●14:15	実践報告会 コーディネーター：藤井 達也氏(再掲) ・報告者(各自20分) 内山 晴菜 氏(就労継続 B 型事業所「きさらぎ富士」:静岡県富士市) 船山 敏一 氏(就労移行支援事業「藤沢ひまわり」:神奈川県藤沢市) 羽根 由起江 氏(地域活動支援センター「みらまーる」:神奈川県茅ヶ崎市) ・意見交換(グループ別) ・総評：藤井 達也氏(再掲)
●16:30	閉会あいさつ (終了後懇親会を開催いたします)

■講師 紹介

◆藤井 達也氏 (上智大学総合人間科学部教授)

兄弟の発病をきっかけに精神障害者の「ごくあたりまえの生活を求めて」地域で精神障害者への福祉的援助活動を展開していた”やどかりの里”に研究生として活動に関わり、「ごくあたりまえの生活を求めて」という活動目標を基に教育・研究・活動を行う。関東学院大学、大阪府立大学を経て現在上智大学で精神保健福祉分野について講じている。また、諸外国の実践にも目を向け南ヴェローナ、トリエステの地域精神保健福祉活動の研究やイタリアとアメリカの事例を基に調査研究等も行っている。

◆内山 晴菜氏 / 社会福祉士 (社会福祉法人共生会 就労継続B型事業所「きさらぎ富士」)

日本社会事業大学で社会福祉士を取得した後、2010年に社会福祉法人共生会に入職。グループホームの世話人、就労移行支援事業の就労支援員、相談支援事業の相談員を経て、就労継続支援 B 型事業所きさらぎ富士の立ち上げに従事し、現在に至る。事業所は、精神障害・高次脳機能障害の方が多く、利用者の年齢層が幅広いため、就労支援から生活支援まで、幅広く行っている。

◆船山 敏一氏 / 精神保健福祉士 (社会福祉法人藤沢ひまわり 就労移行支援事業「藤沢ひまわり」)

大学を卒業後、塾講師を経て、1998年に藤沢ひまわり会(家族会)入社し、グループホームに配属後、第1藤沢ひまわり作業所に異動した。2003年に社会福祉法人藤沢ひまわりが設立し、2008年に事業所が、就労移行支援、就労継続支援事業 B 型に移行し、現在は施設長として就労支援に力を入れ多くの就労者を送り出し定着支援を丁寧に行ってきた。また、就労支援に欠かすことが出来ない生活支援における医療機関への同行や就労支援の中での職場訪問等、事業所の外で利用者支援を行っている。

◆羽根 由起江氏 / 精神保健福祉士 (NPO法人松の実会 地域活動支援センター「みらまーる」)

9年前に、家族会(NPO 法人)の運営する地域活動支援センター(前身は作業所)に、非常勤職員として勤務。その後、同法人の現在所属する地域活動支援センターの常勤職員として配属され、精神保健福祉士の資格をとり、現在は施設長として勤務している。法人の体制が代わり副理事長も兼務している。地域活動支援センターには、給付事業所で受け止められない利用者が集まっており、地域との連携を深めながら相談、生活支援、就労支援、定着支援などを行っている。

